



01. 座間市相模が丘地区の魅力

冬のしんとした朝、まだ日が昇っていないうす暗い朝の通学路。ぼつぼつと着ている家の明かりや掃除機の音。夏の夕方、開放した網戸から聞こえるテレビの音や人の生活している影。それらの雰囲気すごく良い。人々の生活が近くに感じられる、その魅力は他の街にはないものがある。

00. 神奈川県座間市



01. 県内4番目の人口密度

市町村	人口密度	人口
1. 川崎市	10,415.92	1,489,477
2. 横浜市	8,527.50	3,731,293
3. 大和市	8,635.73	233,942
4. 座間市	7,335.46	128,844
5. 茅ヶ崎市	6,723.98	240,046
6. 藤沢市	6,133.07	426,678

神奈川県ほぼ中央圏中央地域に属する座間市は都心へのアクセスの良さからその人口密度は県内で4番目と高い数値を出している。そして自然公園や工場などの部分を除いた純粋な人の住む地域の人口密度はさらに高いものになる。

02. 人の生活が近く感じられる



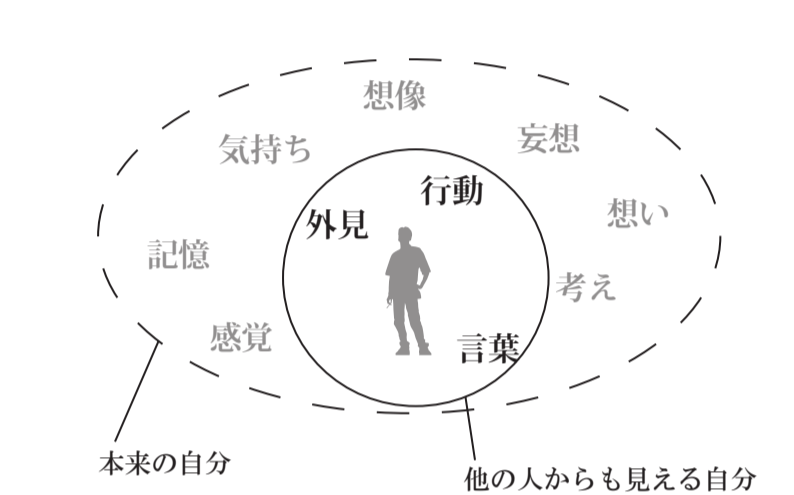
そんな座間市の中で私の住む相模が丘地区は周辺を車通りの多い道に囲まれたおかげで地区の内部はほとんどといっていいほど車通りは少ない。そのため街はとても静かでそこに住む人のテレビの音や部屋の明かり、笑い声などが聞こえてくる。その雰囲気は人の生活が近くに感じられるというとても魅力的なものになっている。



02. 人と人の関係

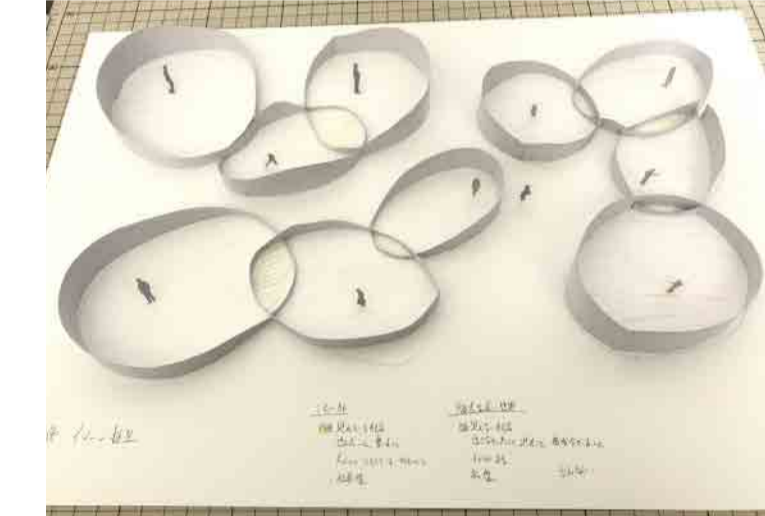
人は誰も見せている部分と見せていない部分がある。そしてそれは大概見せていない部分のほうが圧倒的に多い。しかし、これまでの地域センターやコミュニティセンターと呼ばれる街の公共建築は、見せている部分のいわゆる外面に頼って「交流」や「コミュニティ」などのきれいな言葉を使った当たり障りのない関係をつくってきた。

00. 私、自分。



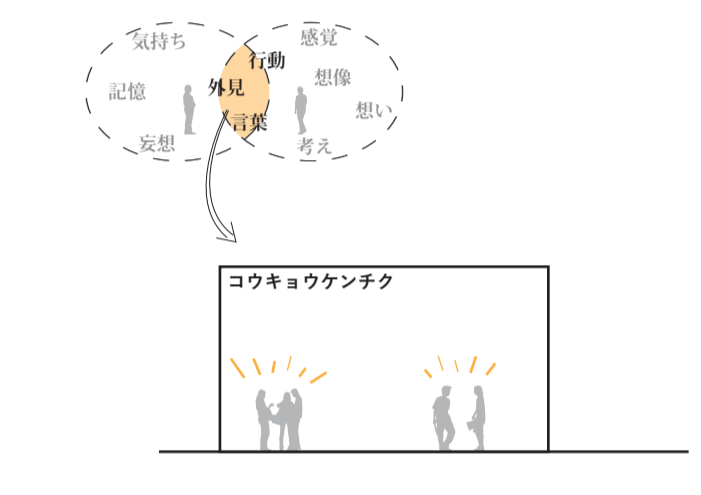
例えば、「私」「自分」というのを考えたとき物質や一生物としての自分以上に、そこにある気持ちや考え、記憶、想像など見えない部分に物質以上の自分の大部分があることが誰もが感覚として分かる。

01. 人と人の関係



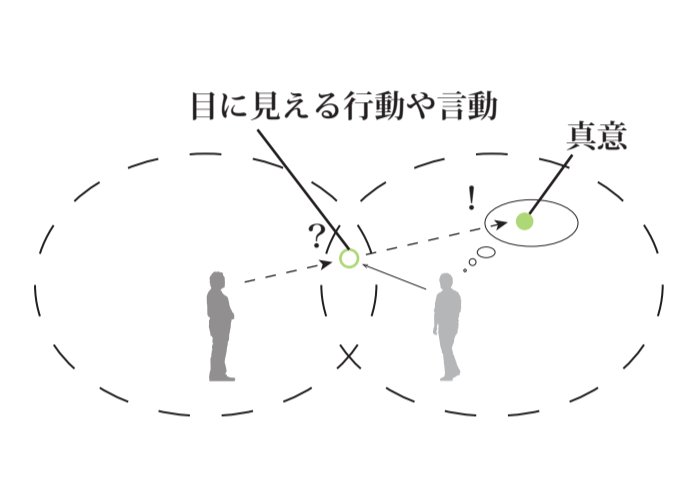
人と人はその膨大な自分の中でもほんの少しの部分しか人に見せていない。ほとんどの部分を見せていないのである、そして見せている部分は年を重ねていくにつれて上手くなっていく。

02. 当たり障りのない関係



これまでの公共建築と呼ばれるものでは、この人に見せている部分、つまり妄想の外の外面に頼って当たり障りのない関係しか作らないようなものであった。

03. 伏線のある建築

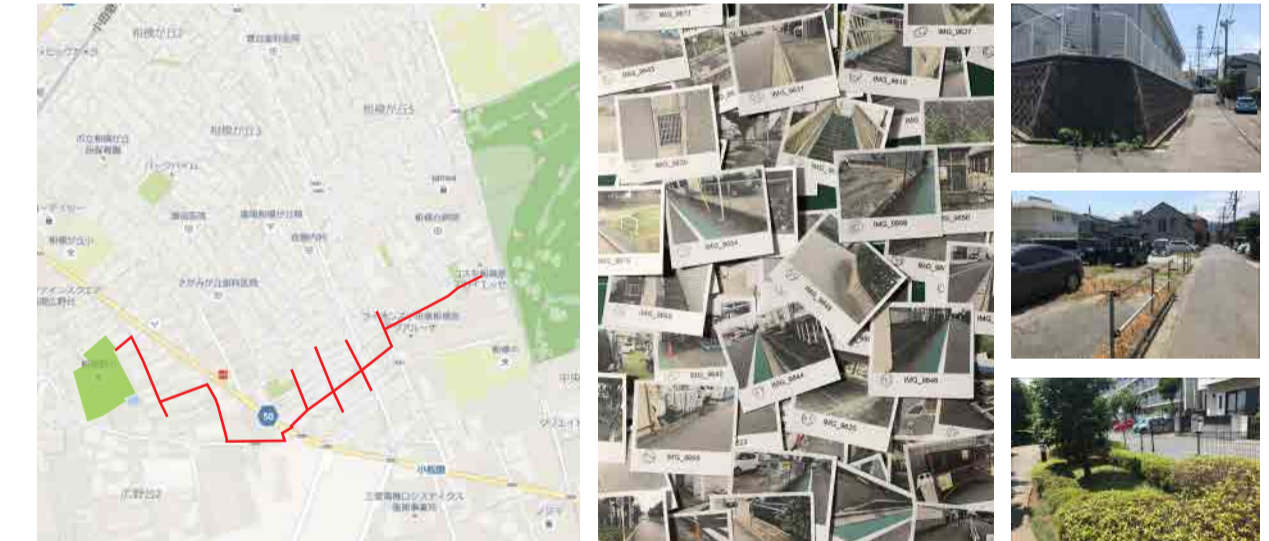


小説、特にミステリーの中には伏線が散りばめられている。伏線は始めそれが伏線だと気が付かない、後にその行動や言葉を見た人の真意が分かった時に初めて伏線だと気付く。

03. 道草のような

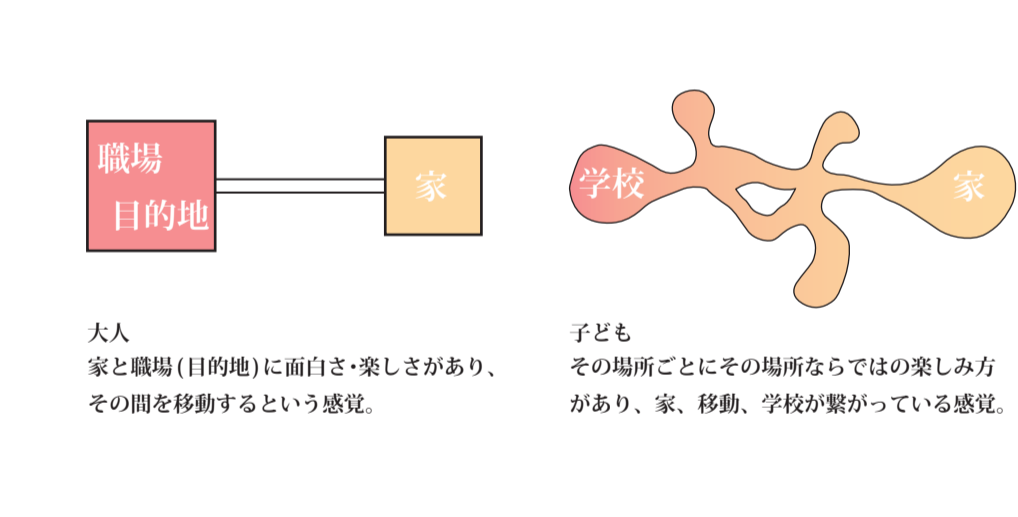
子どもの頃、家から学校までの通学路にある駐車場の塀や道のフェンス、ちょっとした段差などを見つけては様々な遊びを創り出し楽しんでいた。他より高くなった場所はたちまち周りを溶岩に囲まれた唯一の足場となり、同じ段差でも友達との話が盛り上がってはいれば座って話すが、違う話では上を渡る。道草は街と触れ、一緒にいる人と触れ、自分自身と触れる行為だった。

00. 子どもの頃はあった道草の楽しみ



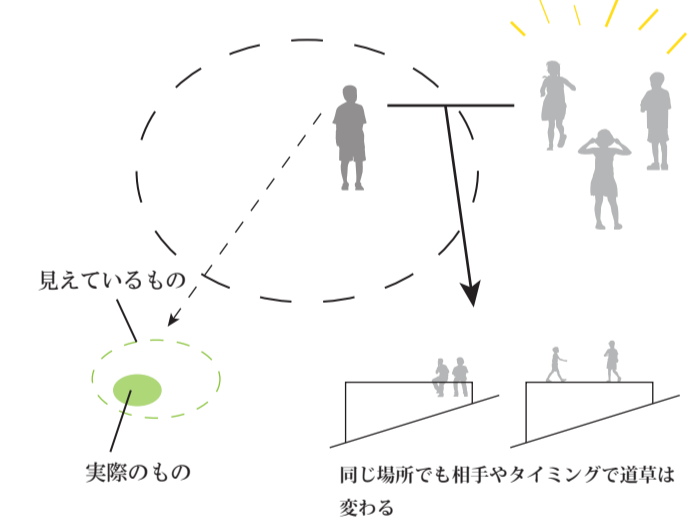
私が小学生の頃、家から小学校までのわずか1km ちょっとの通学路を30分も40分もかけて登下校していた。それは、通学路の途中にあるフェンスや擁壁、段差など街のわずかな手がかりをきっかけに実に100ヶ所以上もの道草する場所を見つけている。

01. 道草のイメージ



しかし、成長していくにしたがって人は道草をしなくなっていく。それは社会で過ごしていく為に身に付けた常識や人の前での振舞い方が邪魔をし、いつの間にか素直さが無くなっていくからである。

02. 道草と伏線



道草は概ね街中にあるものを本来の使い方は全く違う使い方で見られる。そのとき、その人には本来のものとしては見えていない、自分の中にあるイメージを実物のものに投影している。

伏線のある建築 ~極めて個人主義的な道草~

小説の中に散りばめられた伏線に惹き込まれる感覚が良い。これまで街の公共建築という人の外に向けて用意した外面の部分だけを頼りに「交流」や「コミュニティ」、「自然と会話が生まれる」などきれいな言葉を使ってつくってきた。しかし、人の大部分というのは人に見せていない部分であり、それではどこでも同じような当たり障りのない関係しか生まれない。公共という他人との関わりが求められる空間であえて「私、自分」という個人を主義的に考えることで、公共という概念を考え直していきたい。

4BEB1204 杉江隆成



04. 極めて個人主義的な空間

個人主義的というのは引きこもりのようなことではない。自分の外面だけでなく内面から、そして相手の外面だけでなく内面にも視線を向けるということ。人々の生活が近くに感じられるという座間の魅力は、観光や名物などのように分かりやすいものではない。じっくりと実感があいてくるもの。

